

本格的な梅雨模様です

天候の急変に注意しましょう

これを書いてるのは六月二十日です。

前号(6月5日発行分)で「今年はずばらく梅雨入り発表はなさそうですね。」などと書いていたら、6月4日に梅雨入りしてましたー。なんたるミス。痛恨の極みです。

さて。福岡管区気象台が発表している長期予報によりますと、向こう1ヶ月は「雨が多い」確率が高いと予想されています。気温も高い傾向で推移すると予想されていて、蒸し暑い気象状態になりそうです。

また、各メディアで報じられている気象情報を見ていると、やはり今年も「天候の急変」が多いとの予測が出ています。

原因は複雑に絡み合っていて、正確に予測することはまだまだ難しいのが実情です。

こうした激しい気象変化から身を守るためにも、常に最新の情報をチェックして、備えを万全にしましょう。



季節の言葉あれこれ

さて。今回もまたまたやってまいりました。「季節の言葉あれこれ」と銘打って、その時期その季節にちなんだ言葉をご紹介しますこのコーナーでございます。

過去の記事とあまり重ならないようにと気をつけながら書いていますが、もはやネタも尽きた感があり、胃が痛くなりつつあります。なので、今回は2年前に記事にした言葉ですが、もう少し深く掘り下げてのご紹介ということで。(前置きで行数稼ぎました！)

【小暑】(しょうしょ)

- 二十四節気のひとつ。第十一番目の節季
- 旧暦六月の節。
- 太陽の黄経が105度になる日です。
- 今年7月7日がこの日にあたります。

江戸時代に編纂された『暦便覧』には、小暑についてこのように書かれています。

「大暑来れる前なればなり」

なんともまあ、次に来る節季の【大暑】の前座みたいな扱いですね。まあ、気象情報のコーナーなどで小さく紹介されるくらいで、実際あまり目立ってませんけれども。

「小暑」は「小さく暑い」と書くとおりに、本格的な夏の暑さが始まるちよっと前あたり、という意味でもあります。(「大暑」は文字通りです)

歳時記の本などによりますと、この頃から梅雨が明け始めるともあります。しかし、この時期に梅雨明けしているのは、沖縄や奄美地方などの南の地方だけで、全国的には梅雨真っ盛りです。

ちなみに、二十四節気はそれぞれ期間という意味合いもあり、この「小暑」の場合、次に来る節季の「大暑」前日までの期間をさします。(今年「大暑」が7月22日ですので、前日21日までの15日間が「小暑」の期間になります)

また、この時期から「暑中」という時期になり、その言葉も使われるようになることから「暑中見舞い」が出される季節でもあります。

(ただ、この「暑中見舞い」に関しては「大暑」を迎えてから「立秋」の前日までが正式であるとされていると紹介している本もあります)